

2026年4月7日

成果報告

虹とともに生き抜く

LGBTQ+/SOGI を考えてきた学生たちの歩みとその先 in 立命館大学

01. / ゼミの概要・目標

LGBTQ+の視点から社会について考え、理解を深め、意見を交わし、ゼミの各人がLGBTQ+と社会とのつながりについて意見を持つこと



02. / ゼミの活動内容・活動スケジュール

主な活動内容：ゲストをお呼びしたトークイベント(以下イベントタイトル)

虹とともに生き抜く

LGBTQ+/SOGI を考えてきた学生たちの歩みとその先 in 立命館大学

活動スケジュール

12月前半～ 吉野様・白石様 打ち合わせ(オンライン)

会場決定・申し込みフォーム・イベントタイトル決定・グラントルール決定

配布冊子の作成

12/8 当日の役割決定

12/15 最終MTG

12/16 登壇者最終打ち合わせ

12/19 トークショーイベント当日



03. / ゼミで得たもの、学んだこと

- 「既存情報の紹介」に留まらず、現在の課題解決や新しい考えに踏み込む重要性。
- エコ意識（配布冊子のPDF化）や、トークイベントという形式が内容に最適だったかの再検討が必要。
- 台本ありきの進行ではなく、登壇者の知見やアドリブを活かした双方向のやり取りこそが、参加者・みらいゼミメンバー双方の深い気づきに繋がる。
- ハイブリッド開催において、オンライン参加者へのアナウンス不足を解消し、配信を単なる「中継」ではなく「参加」の場とするためのこちら側からの働きかけの必要性。
- サークル化が認証されない問題等を単なる運営上の困難ではなく、直接的な差別として捉えるべきという意見などが出たことで、問題を再認識する機会となった。
- 余裕を持ったスケジュール設定と、準備過程発生した問題点を早期に共有・相談できる組織としての仕組みが必要。
- 支援ツールであるUDトークの使用方法を学び、必要性を感じる機会となった。



04. / ゼミにおける反省点、課題

- 当初の依頼内容（登壇）を逸脱する追加業務（寄稿等）の発生。
- 確定事項や変更点の連絡漏れ・後出し。
- 資料チェック等に対する、相手のスケジュールの考慮不足。
- 打合せを「進行確認」ではなく「リハーサル」化させてしまった。
- スライド作成の有無など、必要資料の提示タイミングの遅れ。
- 「完全台本」にしたため、アドリブや生きたコミュニケーションが不足してしまった。
- 冊子作成を始めるのが遅かったため、完成がイベント当日となってしまった。
- メンバー間での仕事量の隔たりがあった。



05. / ゼミとして発信したいこと

トークイベント中に作成した冊子の活用

立命館大学を取り巻くLGBTQ+に関連する様々な歴史を取りまとめた冊子を今回トークイベントの準備を行う中作成、イベントで配布した。この冊子はネットの情報だけでなく、直接連絡をとるなどして作成された。また、歴史だけでなく、現在どのような活動がなされているのか・現在学生がどのような思いを持って活動しているのかなども記している。この冊子を今後も広め、活用していくことは過去の事柄を出来事で終わらせない為にも重要だと考える。





THANK YOU